

「もの忘れ外来」開設

緑に囲まれた病院の「もの忘れ外来」。笠間睦さんの問診で年齢を問われた男性は「うーん、六十四歳くらい



「ですかね」と困った顔で言葉を預けた。あくまで柔和な表情の笠間さん。問を置いて、「八十歳になら

榊原白鳳病院 (津市)

診療情報部長 笠間睦さん (52)



「認知症は早期発見が重要」と話す笠間睦さん＝津市の榊原白鳳病院で

患者の尊厳守りたい

認知症患者の家族は、徘徊や暴言、暴力が多かった。対処法をアドバイスしたり、症状を詳しく聞いてあげたりすることで、ストレス解消になるとい

(津市)で脳ドックの担当内科医に。その頃、認知症の客観的な診断指標が複数発表され、早期診断を行う全国初の専門ドックを開設した。認知症治療薬がない時代。院内に「葉がないのに早期診断しても意味がない」という意見もあったが、開設後は早期診断を求めるお年寄りが列をなした。いま、笠間さんが積極的に使う診断法が「リバーミード行動記憶検査」。複数の顔写真を覚えたり、耳で聞いた長文を間違いないように再現したりする比較的難しいテストだ。同病院では、もの忘れ検査受診者全員に受けてもらうという。もの忘れ外来は、今や全国にできた。時代の変化を感じるもの、認知症への社会の偏見は、今もあると感